

Fukui Health Science University Graduate School

保健医療学研究科 保健医療学専攻

博士前期課程

- 神経系リハビリテーションコース
- 運動器リハビリテーションコース
- 健康生活支援コース

博士後期課程

- 生活支援リハビリテーションコース



福井医療大学大学院

現代社会のニーズに応える 人材を育成。

近年、医療の進歩・発展に伴い、保健医療関連職に対する社会的ニーズは多様化しており、細分化・専門化した精緻な医療と、総合的・全人的視点からのケアが求められています。

そのような社会的ニーズに応えることができる人材を育成するには、大学院レベルでの教育が不可欠です。

また、これまで福井県には保健医療学領域の大学院がありませんでした。

このような背景を踏まえ、福井医療大学では大学院を開設、高度な専門性と高い倫理観を兼ね備えた人材の育成を目指します。



3つのポイント

POINT
01

福井県唯一の
保健医療学領域
の大学院

POINT
02

「リハビリテーション」と
「看護」を融合した
幅広い研究を行える

POINT
03

新田塚医療福祉
センターの
多彩な併設施設

博士前期課程

研究科・専攻の名称 **保健医療学研究科 保健医療学専攻**
Graduate School of Health Science Master Course of Health Sciences
学位の名称 **修士(保健医療学)**
Master of Health Sciences
修業年限、定員 **修業年限2年(長期履修制度あり)、入学定員10名、収容定員20名**

博士後期課程

研究科・専攻の名称 **保健医療学研究科 保健医療学専攻**
Graduate School of Health Science Doctor Program in Health Science
学位の名称 **博士(保健医療学)**
Doctor of Philosophy in Health Science
修業年限、定員 **修業年限3年(長期履修制度あり)、入学定員3名、収容定員9名**



教育目標

科学的根拠に基づいた医療および生活の支援を実践する能力、
研究を通して培った科学的・論理的思考を活かし、
新たな方向性を創造する研究力、
さらに後進の育成を推進する教育力をもった、
高度専門職業人の育成を目標とする。

学長ご挨拶

高齢化社会に必要とされる高度医療実践者・研究者などを育成します。

福井医療大学は理学療法学、作業療法学、言語聴覚学、看護学の高度な知識と技術を身に付け、人間性豊かで、質の高い医療人の育成に努めてきました。さらに高度な専門性と高い倫理観を兼ね備えた研究者、教育者、高度医療実践者の育成を目指して、博士課程を加え、保健医療学研究科保健医療学専攻博士前期課程と博士後期課程として大学院を新しく改組しました。博士前期課程では運動器リハビリテーションコース、神経系リハビリテーションコース、健康生活支援コースの3つの研究コースを設け、保健医療学分野の研究推進とともにその実践を担うリーダーを養成していきます。博士後期課程では生活支援リハビリテーションコースで障害者や高齢者が社会活動を営むにあたっての多様な課題を包括的に探究できる研究者や指導者の育成を目指しています。

高齢化社会が進む中で、身体的、精神的に問題を抱え、リハビリテーションや介護を必要とする人も多くなり、これらの人々を支える高度医療実践者や研究者、指導者の育成は待たなす。さらに健康障害を予防する研究や実践も今まで以上に重要となります。本大学院では保健医療学に関する幅広い学識と卓越した問題解決能力を有する高度専門

職業人や研究者や教育者として専門領域および地域に貢献して、社会の信頼にこたえることのできる指導者を輩出していきます。リハビリテーション領域の大学院は福井県唯一で、注目度が高く、期待も大きく、しっかりとしたカリキュラムを構成し、優秀な教員による指導体制で皆さんをお迎えします。本学の母体となる新田塚医療センターは多くの保健・医療施設を有していますので、医療・福祉の現場を身近に感じながら学ぶことができる充実した教育環境が整っています。有職者が離職することなく就学できる体制を整え、病院などに勤務しながら無理なく勉学、研究に励むことも可能です。

保健・医療・福祉の場で指導的役割を果たす高度職業人や教育研究者としてのキャリアアップを目指したいという熱い志を持った方々をお待ちしています。



学長／医学博士 山口明夫

研究科長ご挨拶

本大学院ならではの特色ある学びで、みなさんのキャリアアップをお手伝いします。

福井医療大学大学院は、リハビリテーションや看護を専門分野とする大学新卒者や、既にその臨床現場で活躍している方々、さらに医療・保健・福祉の分野に属する様々な方々が、より高い目標に向かって学習し、研究を行うことを目的としています。

博士前期課程は、専門性に富んだ3つのコースから成り、様々な機器を用いて新しい知見を見出す研究や、地域支援に繋がる研究を行い、幅広い知識や高度な専門性をもった高度専門職業人を養成します。博士後期課程では、博士前期課程での学びを基礎として、我が国が抱える人口減少という問題に取り組みます。具体的には、障害者や高齢者が自立して健康管理を行い、就労し、生産性を発揮できるような新しい支援技術の開発をテーマに、学生自らが研究を進め、さらに研究指導を行えるだけの力を養います。

本学の第一の特色は、総合病院、外来施設、精神病院、介護老人保健施設、介護老人福祉施設など様々な関連施設を有していることです。従って、様々な環境で、現場の医療スタッフとともに臨床研究を進めていくことが可能です。また、福井県リハビリテーション支援センター、福井県高次脳機能

障害支援センター、福井県スポーツ医科学センターなどの委託事業を通して地域社会との連携を学ぶにはとても適した環境にあります。さらに、他大学との共同研究も行っており、幅広い分野での研究を行えます。第二の特色は、充実した研究環境です。MRI、SPECTはもとより、fMRI、fNIRS、デジタル脳波計、視線解析装置、筋電計、Driving Simulator、三次元動作分析システム、Virtual Realityなど様々な機器を用いた臨床研究を、関連施設で実際の患者さんにもご協力いただく形で進めていくことが可能です。また、動物実験を希望される学生さんには、専門の教員が指導させていただきます。従って、皆さんのアイデアを色々な形で具現化していける環境を提供できます。

当大学院では、これらの特色を生かして、自己研鑽や社会貢献を目指したいという意欲のある皆さんの入学をお待ちしています。



研究科長／博士(医学) 小林康孝

博士 前期課程

M a s t e r C o u r s e o f H e a l t h S c i e n c e

健康生活支援に焦点を当てた
3つのコースを設置。
高い倫理感と豊かな人間性を
兼ね備えた高度医療実践者・
研究者を養成します。

博士
前期課程

養成する人材像

保健医療学分野を先導する研究・実践を行える人材

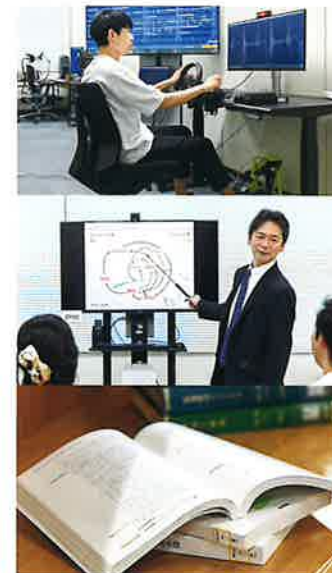
学問的基盤を有し、保健医療に関わる高度専門知識・技術を有する臨床実践者。すなわち、

- ①脳・神経領域における疾病・障害
- ②運動器領域における疾病・障害
- ③健康増進と再獲得及び疾病予防

これらに関する課題を解明する能力を身につけ、創造的・実践的な専門知識と専門技術を有する高度専門職業人。

高い倫理観と豊かな人間性をもって 地域に貢献できる人材

あらゆるライフサイクル、ライフステージ、場において、地域住民に対する健康増進・再獲得、疾病予防・治療、障害予防・治療に関し、多職種連携の相互理解を図り、チーム医療に貢献できる指導的能力を持った実践者。



神経系リハビリテーションコースの履修例

1年前期					1年後期					2年前期					2年後期					
	AM	PM	18:20～19:50	20:00～21:30		AM	PM	18:20～19:50	20:00～21:30		AM	PM	18:20～19:50	20:00～21:30		AM	PM	18:20～19:50	20:00～21:30	
月	勤務		必修	選択	月	勤務		必修		月	勤務		必修	必修	月	勤務		特別研究	特別研究	
火				選択	火			必修		火					火					
水			必修		水			選択	選択	水			選択	選択	水					特別研究
木					木					木					木					
金			特別研究		金			選択	特別研究	金			特別研究	特別研究	金					
土					土					土					土					

2年間のスケジュール

1 年 次	4月	5月	6月	7月	8月	9月
	入学		研究課題の決定及び計画の立案			
	入学オリエンテーション	履修指導・研究課題の相談	「研究課題届出書」提出			
	研究領域および指導教員の希望					
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	研究課題の決定及び計画の立案		研究計画に基づく研究の遂行			
2 年 次	4月	5月	6月	7月	8月	9月
	研究計画に基づく研究の遂行					
	「中間発表会」での発表					
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	論文の執筆					修了式
	「論文審査申請書」の提出			論文の提出	論文の雑誌投稿	修了(学位記の交付)
			主査・副査による審査最終試験(口頭試問)			

入学資格

理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、看護師のいずれかの資格を有する者及び、当該年度に取得見込みの者。短期大学、専修学校、各種学校を卒業している者は、3年以上の勤務経験を有すること。

学生納付金

入学金	学費(前期分)	学費(後期分)	初年度納入金額
200,000*	300,000	300,000	800,000

※本学の卒業生は入学金免除

奨学金

独立行政法人日本学生支援機構

- 第一種奨学金[無利子]
- 第二種奨学金及び入学時特別増額貸与奨学金[利率上限(年3%)あり] ※在学中は無利子

神経系リハビリテーションコース

脳・神経系の基礎に習熟し、加齢や神経疾患に伴う精神・身体障害のメカニズムを理解したうえで患者の状態を総合的に評価。神経リハビリテーションの実践および研究によって、その回復に寄与できる知識・技術の修得をめざします。さらに、地域において多職種との連携のもと、生活行為向上へとマネジメントできる高度専門職業人としての卓越した能力を培います。

科目区分	授業科目の名称	配当年次				単位数		コース選択必修	履修要件
		1前	1後	2前	2後	必修	選択		
共通科目	倫理学特論	○◎				2			12単位
	国際医療学演習			○◎		2			
	研究方法論Ⅰ	○◎				2			
	教育学特論	○◎				2			
	専門職連携論		○◎			1			
	コミュニケーション特論	○◎					1		
専門科目	統計解析評価学特論		○◎				2		22単位
	健康教育特論		○◎			1			
	健康政策論		○◎			1			
	神経系リハビリテーション特論Ⅰ	○◎					2	○	
	神経系リハビリテーション特論演習Ⅰ		○◎				2	○	
	神経系リハビリテーション特論Ⅱ	○◎					2	○	
	神経系リハビリテーション特論演習Ⅱ		○◎				2	○	
	生涯発達学特論		○◎				2		
	特別研究	○◎	○◎	○◎	○◎	10			
	就業と同様な経験／課外活動(関連施設での実践・カンファレンス)	◎				3回/週			

○:理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、看護師資格保有者
◎:学部新卒者対象学生(就業が叶わない学部新卒者)
※学部新卒者については、1年前期に受け入れ施設と調整しながら、平日の13:30～16:30の3回/週の臨床見学やカンファレンスをもつ

運動器リハビリテーションコース

筋骨格系の基礎に習熟し、スポーツなどに伴う運動器機能障害のメカニズムを理解したうえで、患者の状態を総合的に評価。そして、モビライゼーションやアスレティックリハビリテーションの実践および研究によって、その回復に寄与できる知識・技術の修得をめざします。さらに、地域において多職種との連携のもと、生活行為向上へとマネジメントできる高度専門職業人としての卓越した能力を培います。

科目区分	授業科目の名称	配当年次				単位数		コース選択必修	履修要件
		1前	1後	2前	2後	必修	選択		
共通科目	倫理学特論	○◎				2			12単位
	国際医療学演習			○◎		2			
	研究方法論Ⅰ	○◎				2			
	教育学特論	○◎				2			
	専門職連携論		○◎			1			
	プロフェッショナリズム特論	○◎					1		
専門科目	統計解析評価学特論		○◎				2		22単位
	健康教育特論		○◎			1			
	健康政策論		○◎			1			
	運動器リハビリテーション特論Ⅰ	○◎					2	○	
	運動器リハビリテーション特論演習Ⅰ		○◎				2	○	
	運動器リハビリテーション特論Ⅱ	○◎					2	○	
	運動器リハビリテーション特論演習Ⅱ		○◎				2	○	
	精神健康支援学特論			○◎			2		
	特別研究	○◎	○◎	○◎	○◎	10			
	就業と同様な経験／課外活動(関連施設での実践・カンファレンス)	◎				3回/週			

○:理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、看護師資格保有者
◎:学部新卒者対象学生(就業が叶わない学部新卒者)
※学部新卒者については、1年前期に受け入れ施設と調整しながら、平日の13:30～16:30の3回/週の臨床見学やカンファレンスをもつ

健康生活支援コース

あらゆるライフサイクル、ライフステージ、場における対象の精神・身体機能を総合的に評価し、我が国の健康政策に則った健康増進、疾病予防及び、障害された健康を再獲得するための支援を実践・研究することで地域に貢献します。さらに、地域において多職種との連携のもと、生活行為向上へとマネジメントできる高度専門職業人としての卓越した能力を培います。

科目区分	授業科目の名称	配当年次				単位数		コース選択必修	履修要件
		1前	1後	2前	2後	必修	選択		
共通科目	倫理学特論	○◎□				2			12単位
	国際医療学演習			○◎□		2			
	研究方法論Ⅰ	○◎□				2			
	教育学特論	○◎□				2			
	専門職連携論		○◎□			1			
	コミュニケーション特論	○◎□					1		
専門科目	プロフェッショナリズム特論	○◎□					1		22単位
	研究方法論Ⅱ		○◎□				1		
	健康教育特論		○◎□			1			
	健康政策論		○◎□			1			
	健康生活支援特論Ⅰ	○◎□					2	○	
	健康生活支援演習Ⅰ		○◎□				2	○	
	健康生活支援特論Ⅱ	○◎□					2	○	
	健康生活支援演習Ⅱ		○◎□				2	○	
	精神健康支援学特論			○◎□			2		
	特別研究	○◎□	○◎□	○◎□	○◎□	10			
学部	就業と同様な経験／課外活動(関連施設での実践・カンファレンス)	◎				3回/週			9単位
	解剖学総論	□				2			
	生理学	□				2			
	保健医療論	□				2			
	基礎看護学総論	□	□			2			
	リハビリテーション概論	□				1			

○:理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、看護師資格保有者
◎:学部新卒者対象学生(就業が叶わない学部新卒者)
□:理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、看護師以外の資格保有者
※学部新卒者については、1年前期に受け入れ施設と調整しながら、平日の13:30～16:30の3回/週の臨床見学やカンファレンスをもつ

卒業後の活躍の場 各種スポーツ団体、医療・介護の諸施設、地域での介護予防、行政関連機関、医療関連企業、大学等教育機関 など

VOICE

TEACHER'S VOICE

大学院は、研究活動を通して多職種連携の礎を形成できる貴重な場。

博士課程では研究活動を通して、臨床現場での事象や疑問点について探究していくほか、新しい看護・介護技術の発見や保健医療現場の改善につながる社会的意義のある研究に取り組みます。個人では困難な研究手法に挑戦し、臨床施設にはない実験機器などを駆使しながら、多くの人々の役に立つ研究に取り組むことは、きっと大きな充実感を味わえるはずです。また、現在、保健医療分野の現場では、各分野の専門家たちが連携して医療にあ

たる「チーム医療」の重要性が叫ばれています。そんな中、本学の博士課程は多職種連携の礎を形成できる場としてもとても有用です。本学の講義や研究発表会では理学・作業療法士、看護師など、職種も考え方も様々な人材が集まる機会が豊富にあります。こうした多様な人たちと活発に意見交換を交わしながら、生涯にわたって自分の助けとなってくれるような人とのつながりを広げていけるところは、本学大学院の大きな魅力のひとつです。



健康生活支援コース 教授 北川敦子

STUDENT'S VOICE



神経系リハビリテーションコース (福井厚生病院勤務) 寺崎源

研究活動はもちろん、臨床活動での疑問点なども払拭できる。

大学卒業後、理学療法士として現場で臨床経験を積んできましたが、質の高いリハビリテーションを患者さまに提供できているのか、疑問や不安を感じる瞬間が度々ありました。そこで1年間現場経験を積んだ後、「研究結果に基づいて論理的なアプローチができる理学療法士」をめざして大学院に進学。仕事と研究との両立には不安もありましたが、福井医療大学には通常2年間の博士前期課程のカリキュラムを3年間かけて履修する

ことができる「長期履修制度」が用意されていたため、この制度を利用して、無理なく研究に打ち込むことができました。また、大学院での多様な経験により幅広い知見を深めることも、私が大学院に進学した目的のひとつ。福井医療大学には研究だけでなく、臨床経験も豊富な先生方が多く、日頃の臨床での疑問点などについても、様々な観点からご指導やアドバイスをいただくことができるので、とても充実した環境です。

根拠に基づいて、論理的にアプローチできる力が身につく。

「臨床現場だけではなかなか培うことができない専門的な知見を磨いてスキルUPをめざしたい」との思いから、大学院に進学しました。私は福井医療大学の卒業生だったため、母校に再び通う感覚で肩ひじ張らずに研究に取り組める環境だったことも、福井医療大学の大学院を選んだ理由のひとつです。現在は、微弱な電磁波によって詳細に脳活動を調べることができるfMRIを用いて、「運転時の危険判断には脳のどの部分が賦活

(活性化)するのか」を分析する研究に取り組んでいます。この研究が進めば、脳外傷や脳卒中などの後遺症による脳機能障害患者さまの運転行為支援の一助になるはず。まだまだ様々な検証が必要な研究テーマですが、fMRIなどの最先端機器を使用した研究活動はとても刺激的です。仕事での臨床現場でアプローチを検討する際にも、脳画像の解析結果を利用するなど、研究で培った論理的な思考が非常に役立っています。



神経系リハビリテーションコース (福井総合病院勤務) 増村海吏

GRADUATE'S VOICE



健康生活支援コース (福井総合病院勤務) 河邊かれん

学部生時代の心残りだった研究活動に没頭できた。

私は、福井医療大学がまだ短期大学だったころの卒業生です。「看護師として早くから現場に出て経験を積みたい」との考えから、卒業当時は短期大学という選択に満足していました。しかし、短大では卒業研究に取り組む時間があまりなく、課題解決プロセスなどを学ぶ機会が少し乏しかった点に若干の心残りを感じていました。そんな折、福井医療大学に大学院が新設されたことを機に、お世話になっていた先生から大学院入学のお誘いをい

ただき、博士前期課程を履修することに。先生方は、研究経験の乏しい私に研究に取り組む姿勢などの基本からていねいにご指導くださったほか、多職種の方々との議論などを通して、現場だけでは得られない多くの学びが得られ、臨床にも応用できる貴重な経験をたくさん積ませていただきました。看護師には、まだまだ現場一筋という方も多いですが、自分の視野や可能性を広げてくれた大学院進学は、大正解の選択だったと感じています。

研究テーマ例

- ◎神経疲労に対する一過性有酸素運動の効果
- ◎低酸素脳症患者の視覚認知機能－視線解析装置を用いた解析－
- ◎自閉スペクトラム症児における前跳び動作の運動学的特性
- ◎置く動作における上肢筋活動
- ◎個人の食嗜好が摂食嚥下関連領域の脳活動に及ぼす影響－機能的近赤外分光法を用いた研究－
- ◎保健・医療・福祉施設に従事する医療従事者と関連職種における腰痛の有訴率および関連因子の検討に関する研究
- ◎維持血液透析患者におけるスキン－テアの発症要因－皮膚分泌Dermokine検出の有無からの検討－

Doctor Program in Health Science

人材・教育者を養成します。

09

生活支援リハビリテーションコース

障害者や高齢者が、自立した生活を営むための生活基盤を維持できるような新しい支援体制の確立や、自立して就労し生産性を発揮できるようなリハビリテーション技術の開発ができる研究者を養成します。さらに、地域包括ケアシステムとその維持に向けて、障害者や高齢者と地域・行政を繋ぐ地域連携を中核となって推進できる医療者、およびこれらの人材を教育していける指導者を養成します。

科目区分	授業科目の名称	配当年次						単位数		履修要件
		1前	1後	2前	2後	3前	3後	必修	選択	
共通科目	保健医療学特論	○						1		5単位
	生活支援リハビリテーション特論	○						2		
	研究デザイン特論	○						2		
専門科目	医学的診断技術研究	○							2	12単位
	ニューロリハビリテーション研究	○							2	
	生活支援研究	○							2	
	生活支援リハビリテーション特別研究	○	○	○	○	○	○	10		

卒業後の活躍の場

- 大学、短期大学、企業等において研究開発に携わる研究者
- 医療機関、社会福祉施設、行政機関、教育機関などにおいて指導的役割を担う高度な専門性を持った医療者

VOICE

TEACHER'S VOICE

研究の最前線を担う教員による、卓越した指導体制

福井医療大学の博士課程の特長は、研究者としての成長を徹底的に支える指導力。博士後期課程は、学部の特長や修士課程をすでに修了され、現場でも活躍されているみなさんが、さらなる研鑽や業界の発展のために研究に取り組む課程です。そのため、私たち指導教員も自主性に任せた指導体制ではなく、みなさんの研究パートナーとしてともに悩み、解決策を探しながら、二人三脚で研究に取り組んでいます。研究に

する情熱、そして行動力さえあれば、知識や経験不足の心配はいりません。また、本学には十分な研究実績を有する教員と最新機材が整っているほか、母体である新田塚医療福祉センターには多くの医療・介護施設があるため、患者さまにご協力いただくことで多種多様な疾患や症状に対する応用的な研究ができます。研究を通して臨床活動はもちろん、みなさんの将来に幅広く役立つ、飛躍的な成長が得られるはずです。



生活支援リハビリテーションコース 准教授 藤田和樹

STUDENT'S VOICE



生活支援リハビリテーションコース (福井総合病院勤務) 小川智生

尊敬する先生方の下で、さらなる高みを目指す。

博士後期課程への進学を決めたのは、やはり「学びやすい」です。指導教官の先生方の手厚い指導のおかげもあり、前課程では無事に修士論文を執筆することができました。実験の計画段階から様々なアドバイスを頂き、修正を繰り返す日々でしたが、先生方の研究における圧倒的な経験値から飛び出す意見は、新しい学びの連続でした。学生ごとの進捗に応じた丁寧な指導により、適切に導いて頂けるため、安心して

て学ぶことができました。このような経験から、尊敬する先生方の下でさらに研鑽を積みたいと考えて、博士後期課程へと進学する決意を固めました。私の博士後期課程での研究テーマは、片麻痺患者様の自動車運転におけるペダル操作の安全性についてです。修士課程にて得られた反省点を生かして、内容をより洗練していき、研究成果の公表に取り組んでいきたいと思っています。



教員紹介および研究テーマ

※Emailについて:アドレスは末尾に@fukui-hsu.ac.jpをつけてください。

詳細はこちらから



氏名	役職		学位・資格	研究テーマ	前期	後期
	前期	後期				
山口 明夫 Email:yamaaki	学長・教授		医学博士・医師	◎癌の浸潤・転移機構の解明 ◎進行大腸癌の予後予測に関する研究		生
小林 康孝 Email: yasutaka_k	副学長・研究科長・教授		博士(医学)・医師	◎脳損傷による高次脳機能障害の病態解析 ◎高次脳機能障害者の自動車運転再開 ◎fMRI・脳波を用いた脳機能解析	神	生
林 浩嗣 Email: khayashi	教授		博士(医学)・医師	◎脳血管障害患者の予後予測 ◎神経変性疾患のリハビリテーション ◎脳血管障害、神経変性疾患、認知症へのリハビリテーション栄養	神	生
佐藤 万美子 Email: satomoko	教授	准教授	博士(医学)・医師	◎脳損傷に伴う痙縮のメカニズム解明とアプローチ法 ◎脳卒中片麻痺の回復過程に関する分析 ◎ICFに準拠した高次脳機能障害者の自動車運転再開支援	神	生
堀 秀昭 Email: rpt-hori	学部長・教授		博士(医学)・理学療法士・社会福祉士	◎介護予防と健康寿命の延伸 ◎生涯スポーツと健康増進 ◎地域参加と社会資源の活用 ◎地域包括ケアシステム	神	生
藤本 昭 Email: akira-f	教授	准教授	博士(医学)・理学療法士	◎高齢者に対する転倒予測指標 ◎虚弱老人の介護予防対策		神
石田 圭二 Email: ishida-ot	教授		博士(工学)・作業療法士	◎脳卒中片麻痺上肢の機能評価 ◎脳卒中片麻痺に対する上肢訓練 ◎上肢訓練ロボット ◎作業療法実践に関する質的研究		神
堀 敦志 Email: otr5458	教授	—	博士(工学)・作業療法士・介護支援専門員	◎認知症の予防および早期発見 ◎高齢者の住環境と満足度 ◎環境整備による在宅生活支援および開発 ◎在宅生活維持のためのマネジメント技術の活用		神
塩見 格一 Email: k-shiomi	教授		理学博士	◎カオス理論を利用した発話音声分析技術 ◎発話音声による脳機能状態の推定 ◎ストレス状態とパフォーマンス評価のためのアプリケーションの開発	神	生
藤田 和樹 Email: k.fujita	教授	准教授	博士(医学／保健学)・理学療法士	◎歩行の障害解析およびリハビリテーション法の考案 ◎痙縮に対するリハビリテーション ◎各種疾患および障害の生体運動・筋活動分析	神	生
川端 香 Email: kawabata-ot	教授	准教授	博士(リハビリテーション療法学)・作業療法士	◎高次脳機能障害とSelf-Awareness ◎高次脳機能障害者の社会復帰支援 ◎脳損傷後の自動車運転再開支援	神	生
保屋野 健悟 Email: k.hoyano	講師		博士(工学)・言語聴覚士	◎社会認知機能と嚥下機能の関係 ◎環境因子を利用した摂食嚥下リハビリテーションの開発 ◎摂食嚥下障害に対するリハビリテーション栄養 ◎社会認知機能とコミュニケーションの関係		神
近藤 仁 Email: hitoshik	准教授	—	博士(保健学)・理学療法士・日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー	◎足関節背屈制限による関節運動連鎖への影響 ◎抵抗位置の違いによる筋発揮能力への影響 ◎スポーツ傷害と発生メカニズムとの関係		運
東 伸英 Email: n-azuma	講師		博士(保健学)・理学療法士・日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー	◎スポーツ傷害の評価、治療、予防対策に関する研究 ◎検診やメディカルチェックを用いたアスリートへの支援 ◎学校保健領域の傷害予防に関する研究		運
供田 文宏 Email: tomoda	教授		医学博士・医師	◎腎臓病における腎微小循環の異常とその成因 ◎高血圧での交感神経系と神経成長因子との関連 ◎生活習慣病におけるストレス反応の病態生理学的意義 ◎血液透析患者での至適透析の確立 ◎血液透析患者とサルコペニア	健	生
小俣 直人 Email: omata	教授		博士(医学)・医師	◎内因性精神疾患の病態解明 ◎単一精神病論の復権 ◎多職種が連携した研究の推進	健	生
北川 敦子 Email: akbear	教授		博士(保健学)・看護師	◎褥瘡やスクインタなどの皮膚障害に対する全人的看護方法の確立 ◎終末期がん疾患などのがん以外のスピリチュアルペインの解明とそのケア方法 ◎慢性期疾患患者および家族が抱える生活の再構築に困難な要因とその支援方法 ◎エンド・オブ・ライフケア	健	生
吉田 美幸 Email: myoshida	教授	—	博士(看護学)・看護師	◎医療・保健場面における子どもと家族の理解と支援に関する研究 ◎子育て支援に関する研究	健	
寺島 喜代子 Email: kytera	教授	准教授	博士(医学)・看護師	◎心臓手術を受けた高齢者の社会復帰後の活動量とQOLの推移 ◎脆弱な高齢者に対する看護実践とその評価 ◎せん妄や認知症高齢者に対する看護実践とその評価 ◎高齢者施設での看取りケアにおける看護師が直面する困難の実態 ◎看護実践から学びを深めるリフレクションの実践	健	生
吉江 由加里 Email: y-yoshie	准教授		博士(保健学)・看護師	◎回復期リハビリテーション病棟看護師の多職種連携・協働モデルの開発 ◎専門職連携総合教育プログラムの構築 ◎組織マネジメントに関する研究		健
猪口 徳一 Email: tiguchi	准教授		博士(バイオサイエンス)	◎遺伝情報に基づく器官形成の仕組みと病態解明に関する研究 ◎生化学データ解析によるストレスや健康増進のための指標の探索 ◎実験動物や培養神経細胞を用いた神経回路操作・神経再生の研究	健	生

※前期課程 神:神経系/運:運動器/健:健康生活支援 後期課程 生:生活支援



- 福井駅西口バスターミナル②番③番のりばから約35分、「福井医療大学」下車。
- えちぜん鉄道三国芦原線「新田塚駅」下車、福井総合クリニック停留所から京福バス26系統福井総合病院線で「福井医療大学」下車。

福井医療大学大学院

福井医療大学 入学広報室

〒910-3190 福井市江上町55-13-1

☎ (0776)59-2207

✉ daigaku@fukui-hsu.ac.jp

WEBサイトも
ご確認ください！

